



令和5年12月10日(日) 里山ボランティア 研修会「簡易炭化炉」



日本では昔から竹を活用し、生活に取り入れていましたが、プラスチックが使われる生活に変わり、竹の需要が減ったり、後継者不足も相まって、全国的に「放置竹林」が問題となっています。

里山センターでは、樹木の成長を妨げたり、イノシシなどの住処にならぬ様、毎年ボランティアと冬場に竹林整備を行っています。

今回は13名のボランティアが参加し、竹の活用についての研修を行いました。



この四角い箱は、簡易軽量炭化炉「簡単スミヤケール」
分解、運搬可能なステンレス製の組立式炭焼き機です。
この炭化炉を開発された里山ボランティアでもある石井さんに指導していただきました。



七輪を使い、簡単に火がおこせる方法も学びました。

竹炭を砕き、金網に乗せたまま、「上からあおぐ」と良いそうです。私はずっと下の通気口からあおいでました…



まずは炭材(竹)を詰め込みましょう
※乾燥している方が着火は早くなります



しっかり詰め込んだら・・・



蓋をかぶせます
※付属のピンがあり、4か所固定



こんなに燃えて大丈夫?これは精錬(せいれん)の様子です。炭焼きの終わり頃に空気を大量に入れ、高温で処理する作業で、その後は窯出しまで密閉します



午後は講義の時間です。竹の活用事例、竹炭の製炭方法、炭の活用法を学びました。



(T_T)けむたあい…

いよいよ炭化炉に着火です。
「できるだけ新聞紙を使わず着火してみましよう!」
目標は5分…結局10分程かかりました。初めてにしては上出来かな?!

煙の色や熱さなどで炭焼きの状況を把握します。見極め方を教えてもらいながら進めていきました。

※炭焼き等をする際は、消防署に届け出をして実施しています。



竹炭の完成!最初にいっぱい詰めましたが、体積はおおよそ半程度になりました。

【研修を終えて】

毎冬の竹伐採作業には、重労働にもかかわらず、多くの方が協力して下さいます。今回は伐採だけで終わってしまうのではなく、竹の活用について詳しく学べ、楽しい研修会となりました。参加したボランティアの方からも大好評でした。

今後も竹資源の有効な活用を継続し、環境問題にも取り組んでいきたいと思ひます。